

平成 29 年度第 4 回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：平成 30 年 3 月 15 日（木） 午後 3 時～午後 4 時 45 分

■開催場所：kokoka 京都市国際交流会館 会議室 3・4

■議題：

- （1）京都市のまちづくり活動に関する現状分析について
 - ・アンケートとヒアリング結果から重点ポイントを議論
- （2）「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況について

■報告事項：

- （1）新たに設置された附属機関等について
- （2）「市民協働ファシリテーター制度」の創設について
- （3）「チャレンジ！！オープンガバナンス 2017」での最高位の賞の受賞について
- （4）市民参加に関係する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員 13 名

（壬生座長，川島副座長，竹内副座長，荒木委員，内田委員，太田委員，大鳥井委員，兼松委員，桜井委員，芝原委員，津田委員，松下委員，吉川委員）

■傍聴者：なし

■特記事項：

動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）を利用し，後日，音声配信を実施する。

【議事内容】

1 開 会

<事務局>

ただ今より，京都市市民参加推進フォーラム平成 29 年度第 4 回会議を開催する。どうぞ，よろしくお願いいたします。私は，本日の進行を務める，京都市総合企画局総合政策室創生戦略・市民協働推進部長の松野です。

市民参加推進フォーラムは，市民参加の推進に関する事項について，市長の諮問に応じ，調査，御審議いただくとともに，当該事項について御意見をいただく機関として設置して

いる附属機関である。

まず、委員の欠席について報告させていただく。菅谷委員、杉山委員が御都合により欠席。また、川島副座長については、遅れて到着とのことである。

現在、委員数15名中、12名の委員が出席しており、出席委員が過半数を超えているため、会議の成立ということで開催させていただく。

なお、本日の会議については、後日、摘録をホームページ上で公開するとともに、インターネットの動画配信サービスである「ユーチューブ」を利用した音声配信を行うので、御了承いただきたい。

以降の議事進行については、壬生座長をお願いをする。

2 座長挨拶等

<壬生座長>

本日は、とてもあたたかく桜も咲きそうだったと思うが、まだもう少し待たねばならないようだ。待ち遠しく感じている。

さて、本年度最後の会議ということで、これまでに取り組んできた内容を、皆で確認してまとめることが必要となる。本日も議題が多いが、できるだけ時間内に終わるよう進めたいので、御協力をおねがいしたい。

では、まず、本日の議題及び報告事項の流れについて、事務局から説明をお願いする。

<事務局>

議題は「(1) 京都市のまちづくり活動に関する現状分析について」「(2) 「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況について」の2つである。その後、報告事項が4件ある。

議題(1)で70分程度、議題(2)で10分から15分程度、その後の報告事項で15分程度を見込んでいる。

3 議題

議題(1) 京都市のまちづくり活動に関する現状分析について

<壬生座長>

議題1「京都市のまちづくり活動に関する現状分析について」。事務局から資料の説明をお願いする。

<事務局>

(資料1「まちづくり活動に関する現状分析」を説明)

<壬生座長>

今年度は、市民参加推進計画の進捗管理を行うために、まちづくり活動の現状分析に取り組んできた。資料１は、これまでのアンケートとヒアリング結果から読み取れることをまとめたものである。資料１が最終の成果物となるため、今日は資料１の内容を深めたい。

議論を行うに当たり、いくつかお願いがある。

まず、前回、様々な意見やアイデアをいただき、議論が広がったので良かったが、今日は、アンケートとヒアリング結果を踏まえた分析となっているかということを意識していただきたい。そのため、意見やアイデアをいただく際には、アンケートやヒアリング結果のどの部分に基づいているのかということも併せて御発言いただきたい。

また、アンケートとヒアリング結果から読み取れることは、全て大事なことであるが、全て盛り込もうとすると、市民参加推進計画に掲げる施策と同じ抽象度になってしまう。分析結果をより具体的なものとするため、特に大事だと思うことを重点ポイントに抜き出し、深めたい。

取りまとめた資料は、市民協働推進担当が受け止め、各所属と連携の上、今後、どのようなことを行うべきか考える基礎資料とするものである。

次回の計画改定の際には、今年度取りまとめた内容を振り返り、進捗を確認したいと思う。

それでは、まず、資料１の「フェーズ１ まちづくり活動への関心が高まり参加する」について、御意見を願います。

<兼松委員>

まちづくり活動への参加は２段階ある。１段階目はイベント等への一参加者としての参加で、２段階目は運営側としての参加である。サービスを受ける側から運営側への転換を促すためには、両者の線引きをしないことが大切。運営する側が、「この人たちは将来、まちづくり活動の主体者になる人である」という意識で、イベント参加者等と接することができればよい。次回アンケートを行う機会があれば、イベント等の参加者が運営側に転じたきっかけを具体的に聞いてみたい。

「アンケート結果から読み取れること」の①に関連したことであり、想いを持った人が運営側に変わるきっかけを意識することの重要性を「重点ポイント」に追記してはどうか。

<芝原委員>

確かに、イベント等に参加した人が全て運営側に転換するわけではないので、「意見」にも、何か追記できればよい。

<大鳥居委員>

確かに、イベント等への参加者を増やすことも大事であるが、運営側に転換するためには、更にもう一工夫必要だと感じる。

<竹内副座長>

社会や地域に対して想いを持つ人を増やすことに加えて、想いを持った人が活動主体に転換するきっかけづくりについて、具体的に記載できればよい。例えば、「ヒアリング結果から読み取れること」のBにあるように、大学等にも出向いて情報を届けに行き、興味を示した大学生には、あなたも活動主体になれるんだという事を直接伝えるなどの工夫が考えられる。

<芝原委員>

別の項目であるが、「重点ポイント」の2つ目の、支援策や相談機関等の情報発信について、「アンケート結果から読み取れること」の④にあるように、発信する媒体として何を選ぶかにも工夫が必要である旨の記載を加えた方がよい。

<壬生座長>

次に「フェーズ2 まちづくり活動が成果を挙げ、継続的に活動する」について、御意見を願います。

<吉川委員>

今回のヒアリングや、私自身の活動の経験から、まちづくり活動は継続がとても難しいと感じる。活動を始めて2～3年当たりで、当初のモチベーションの維持、メンバーとの考え方の相違、新しいメンバーへの引き継ぎなど、様々な苦労や難しさが出てくる。

<松下委員>

「意見」の3つ目にあるように、補助金の申請は活動を見直すきっかけになると思う。活動を継続すれば、課題に直面するのは、ある意味当然であるが、前向きに捉えれば、課題が見えてきた時こそ、補助金申請をツールとして、活動を見つめ直すきっかけや、行政との連携を深めるきっかけにもなる。

「意見」の中に、そういった前向きな捉え方ができる表現が盛り込まれればよい。

<津田委員>

第三者から見れば活動はしっかりしているが、活動している御本人は着地点が見えていない場合もあると、ヒアリングで感じた。補助金はスタートアップ支援も重要であるが、継続した活動が課題に直面した時に、利用できる補助金があればよい。補助金の支出について見極めが難しいかもしれないが、例えば、最初は半額を支出し、活動がうまく行きそうであれば残りの半額を支出するなども考えられる。

<竹内副座長>

「活動を継続するためには、活動に寄り添いながら、補助金と併せて様々な資源を用いてコーディネートする人が大事」という意見が前回の会議で出ていたが、アンケートとヒアリング結果から直接導き出される分析ではないため、資料に記載してよいのか悩むところである。

例えば、補助金の申請が活動を見直すきっかけになり得るが、申請を受け付ける際に、そのことを促すような問いかけを行う人が重要である。

ヒアリングでは、窓口の担当者によって、補助金申請の際のアドバイスが異なるという話もあった。

<桜井委員>

アンケートの設問11の結果では、任意団体において、仲間集めに苦勞していると回答した割合が多かった。アンケートの設問13の結果では、広報やイベントの集客に対する支援として、一番ニーズが多かったのは、行政のサイトやSNS等で発信して欲しいというものであったが、2番目のニーズとして、任意団体は情報発信の講座をして欲しいという回答がやや多く、NPOは専門家を派遣して欲しいという回答が多かった。広報の支援については、特にNPOにおいて、コーディネーター的な役割が必要ということが言えなくはない。

<内田委員>

団体の性質や活動の状況（調査段階、一歩踏み出した段階、課題に直面した段階など）によって必要な支援は異なる。重点ポイントの1つ目の記載は、そのことが分かりにくい。「違いに応じた支援を見極めることが重要」といった記載が必要である。

<芝原委員>

重点ポイントの1つ目の「まちづくり活動を行うに当たり」という記載は、「まちづくり活動を継続するに当たり」とした方がよい。

<壬生座長>

次に「フェーズ3 多様な主体と協働する」について、御意見を願います。

<太田委員>

前回の会議では、活動を行っている人のニーズを行政が把握したり、活動を行っている人がヒントを見つけるための場は実際にはたくさんあるが、そういった情報の交通整理を行うコーディネーターの役割が重要であるということでもまとまった。

京都市は様々な場を設けているが、そういった場があることがもっと浸透すればよい。

<荒木委員>

行政にそこまでのコーディネートを期待できるかという疑問もある。行政はそこまで地域の人財を知らないのではないか。人財バンクのように、まちづくり活動に詳しい人を登録し、行政が紹介するといったことが必要ではないか。

<事務局>

まちづくり活動への支援を行うために、仕事で培った知識・ノウハウを活かしたい方を登録し、依頼があれば派遣する制度、いわゆるプロボノ派遣制度を昨年度から始めたところである。

<川島副座長>

交流会と言っても、アンケート結果からは、NPO同士でつながりたい、自治会・町内会とつながりたい、企業とつながりたいなど、ニーズは様々あった。ニーズに合った交流会を開催することが大事である。こうしたニーズの違いについて、もう少し具体的に記載した方がよい。

また、行政のコーディネート機能はもちろん大事であるが、コーディネートは行政だけが担うものでない。行政以外も含めて多様なコーディネーターがいるということを意識して記載する必要がある。多様なコーディネーターを養成するということも考えられる。

<壬生座長>

「重点ポイント」の2つ目は、自治会・町内会とNPO等との連携に行政のコーディネーターが必要という記載であるが、あらゆる主体間の連携で、行政のコーディネーターが必要なので、記載を工夫する必要がある。

<川島副座長>

主体間の連携だけでなく、自治会・町内会の中での連携や、NPO同士など、主体内での連携にもコーディネートが必要であり、そのコーディネートは行政だけが担うものではなく、コーディネーターの養成も必要ではないか。

<桜井委員>

アンケートの設問17を見ると、交流会に期待するものとして、自治会・町内会では、一緒に活動する人を増やすことや、活動のヒントをもらうことの回答が多い。NPOでは、ネットワークが広がることや活動のヒントをもらうことが多く、任意団体では、ネットワークが広がることや、一緒に活動する人を増やすことが多い。

<川島副座長>

アンケート結果からは、一緒に活動する人を増やしたり活動のヒントもらうなど、自分達の活動を固めたいというニーズと、ネットワークを広げるなど自分達の活動を広げたいというニーズがあることが読み取れる。

<壬生座長>

ここまで、フェーズに沿って、一通り議論したが、改めてどのフェーズでも構わないので、御意見をいただきたい

<川島副座長>

フェーズ1で、イベント等に参加するだけでなく、活動主体になるためのきっかけが重要ということであったが、具体的にどういったことを記載すればよいか。

<内田委員>

活動主体になるということは、どういうことか。例えば、活動を応援するための寄付は、活動主体になることに含まれるのか。

<兼松委員>

活動主体になるということは、運営のリーダーでなくてもよいが、スタッフになることだと考える。

寄付する人は今の日本では限られているので、イベント等に参加するよりは、関わりは強いと思う。内田委員にお聞きしたいが、寄付をする人の傾向はあるか。

<内田委員>

寄付する人の気持ちとして、対価としての寄付、投資としての寄付、社会を良くするための寄付といったものがあると思う。

<竹内副座長>

シニアの方は、自分の知らなかったことに取り組む人を応援する意味で寄付している場合もある。

<桜井委員>

内田委員の質問に対しては、寄付を集める側になることが活動主体になるという理解でよいのではないかと。

<川島副座長>

イベントに参加することと、活動主体になることの間には、すごく距離がある。イメージとしては、イベント等に参加した後に、想いが加わり、より密な関わりになるということだと思う。

<兼松委員>

縁を感じるという言い方もできる。

<荒木委員>

寄付をどう捉えるかというところまで踏み込んで議論するのは大変である。主体的・積極的参加者を増やす、という表現でどうか。

<壬生座長>

他に御意見はいかがか。

<兼松委員>

フェーズ3で、協働を促進するには、コーディネーターで重要であるということであったが、どのような経験がある人をコーディネーターと捉えるのか難しさがある。

<川島副座長>

NPOのコーディネートをするのは、NPOセンターのような団体であるし、地域のコーディネートを行うためには、地域のことに詳しくなくてはならない。養成より、コーディネート能力のある人を見つけることが大事かもしれない。

<竹内副座長>

コーディネーターは養成しにくい。また、専門家を見つけるよりコーディネーターを見つける方が難しく、コーディネーターの資質が高い人は、何に専門性があるのか説明しにくい場合もある。

1人の人が全てをコーディネートするのではなく、更に、特定分野に詳しいコーディネート能力のある人につなぐこともある。

<桜井委員>

ある分野において先駆者となっている人がコーディネーターになりやすい。

協働は組織が更に発展する際に必要な場合もあるが、課題が出てきた時にうまく乗り越えるために必要という場合もある。小規模の活動でも協働が必要な場合がある。

<壬生座長>

事務局として気になるころはあるか。

<事務局>

フェーズ1の議論で、一参加者が運営側に転換するきっかけが重要という議論があった。まさにその通りだと思うが、行政が何ができるか、もう少し明確になればよい。

竹内副座長から「例えば、大学に出向く」という御意見があったが、もう一度お聞かせいただきたい。

<竹内副座長>

一参加者として参加した人が運営側に転換するのは、知らず知らずのうちにすることがあるため、京都市の職員が大学等に出向いて情報を届けつつ、情報収集もするというイメージである。そこで、職員も大学生もお互いに気づくことがあると思う。

<兼松委員>

組織やチームの運営のノウハウにポイントがある。コミュニティづくりがすごく大事。

<桜井委員>

NPO同士でも組織の中でも、気軽に相談できる雰囲気的大事である。

<竹内副座長>

詳細は、事務局と改めて考えたい

議題（２）「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況について

<壬生座長>

第2期市民参加推進計画改定版には、19の施策が掲げられているが、市役所の体制や職員の意識・能力の向上が前提となる。そのため、第5章「計画を着実に進めるための推進体制」として4つの取組を記載している。

資料3を見ていただくと、取組1の「各局区・各職場における市民参加推進のマネジメント体制の強化」から順に4つの取組についてまとめられている。この取組の進捗状況については、毎年、フォーラムで確認をしようということになっている。

まずは、事務局から、資料3に基づき、第5章に掲げられている取組の進捗状況についてご説明をお願いします。

<事務局>

（資料3「計画「第5章 計画を着実に進めるための推進体制」進捗状況」説明）

※市民協働ファシリテーター制度については、資料5「市民協働ファシリテーターの養

成及び任命について」と併せて説明

<壬生座長>

これに関して、何か質問や意見があれば発言をおねがいしたい。

<兼松委員>

昨年と比べるとどうか

<事務局>

市民協働ファシリテーター制度は、まさに本計画に沿って予算を立て、今年度新しく始めた事業である。

<芝原委員>

このファシリテーター講座を受けて誰が任命されたのかということは、ホームページ等で公表しているのか。

<事務局>

庁内で職員が見るイントラネットには、名簿を載せており、それを見た他の職員が相談できるようにはなっている。このファシリテーター制度は、庁内の支援をすることが目的であり、インターネット上などで広く一般に公開ということはしていない。

<壬生座長>

相談があった場合どのように対応をしたかや、相談件数など、実績はわかるようになっているのか。

<事務局>

制度が立ち上がったところなので、今は、市民協働推進担当を通じて相談をもらうようにしている。

実際に、ワークショップを検討している部署から、企画から相談に入ってもらいたいという問い合わせなどが来ている。

<壬生座長>

このような取組は、どんどん広がればよい。

4 報告事項

報告事項（１）新たに設置された附属機関等について

<壬生座長>

では、報告事項に移りたい。新たに設置された附属機関等について、事務局から、資料 6 の説明をお願いしたい。

<事務局>

(資料 4 「新たに設置された附属機関等に係る『附属機関等の設置・開催等に関する協議書』について」説明)

<壬生座長>

以上の説明について、質問や意見があればお願いしたい。

(委員より発言無し)

報告事項(2)「市民協働ファシリテーター制度」の創設について

(議題 2 において説明したため、割愛)

報告事項(3)「チャレンジ!! オープンガバナンス 2017」での最高位の賞の受賞について

<事務局>

自治体が地域課題とデータをインターネット上で提示し、それに対して、市民の方が課題解決のアイデアをまとめるプロセスと成果を審査・評価するコンテストを、東京大学が主催した。

京都市が出した、自転車に関する課題に対して、自転車の活用の推進に取り組む市民の方等で結成された「京の歴史と街並みをつたえ隊」がアイデアを応募し、アイデア・活動・京都市のサポート体制が評価され、最高位の「オープンガバナンス総合賞」が授与されたので、ここに御報告する。

報告事項(4)市民参加に関係する新しい事業や取組について

<事務局>

(資料 7 「市民参加に関係する新しい事業や取組」について、説明)

<壬生座長>

ここまでのご説明について、感想やコメントがあれば、お話いただきたい。

<兼松委員>

報告事項(3)の「オープンガバナンス総合賞」はすごいと思う。全国的にもレベルが

高いのだと思うが、何が評価されて一番になったのか。

<事務局>

まずは、この市民グループのアイデアが、実際にアプリの開発にまで至ったこと。

課題は、駐輪場が活用されていないという事だった。街なかの駐輪場であっても、いつも満車になるところと、空車が目立つところがあるということで、確認すると、空車の多い駐輪場は地下駐輪場が多かった。そこで、駐輪場の存在が単に知られていないのはいかという着眼点で、検索アプリを開発したことがよかった。

また、京都市のオープンデータポータルサイトがあるが、当初、駐輪場がどこにあるのかというデータは出されていなかった。これを、このグループの求めに応じて京都市が出した。

さらに、情報化推進室の市職員が、アプリの企画段階から関わった。市と綿密に連携が出来たという事が評価された。

5 閉会

<壬生座長>

では、今年度皆さんとこのように話し合うのは本日が最後となる。ただ、年度末に向け、本日の話の内容をまとめる。特に、議題（1）の成果物に関しては、皆さんに御確認いただく必要がある。

<事務局>

皆様の御議論を受け、座長副座長とも相談をさせていただいた上で、メールなりで御連絡するので、確認をお願いしたい。

<壬生座長>

確認まで、ひきつづき皆様にはよろしくをお願いしたい。

さて、今年度で、7名の委員が退任となる。荒木委員、太田委員、川島副座長、芝原委員、竹内副座長、津田委員、吉川委員である。会議はこれで最後となるので、ひとことずつ御挨拶をお願いします。

<荒木委員>

お世話になりました。かなり、言いたいことを言わせていただいた。

自分は、英語の教師だったが、この2年間は横文字に悩まされてきた。前座長は、任期を終えられる際、フォーラムの特徴をアクティブ、アグレッシブ、アフォードブルとおっしゃった。最初の2つはなんとなくわかったが、3つめのアフォードブルは2年間考えたがわからなかった。また、本日も、コーディネーターとか、ファシリテーターとか、いつ

たいどんな風に使っているんだろうなあと思ったままである。

<太田委員>

2年間ありがとうございました。最後になってやっと、「委員の仕事とはこういう役割なんだ」ということがわかってきたが、最初は何もわかっていなかった。知ってよかったことや、知らないといけなかったことを知り、勉強になった。また、今後、違う形で関われるきっかけにもなったと思っている。

<川島副座長>

お世話になりました。4年間、委員として関わらせていただいた。特に、市民として、学生が関わるということは、これからとても重要になると思う。先日も、私のゼミの生徒が公募委員サロンに参加させていただき、大変勉強になった。引き続き、学生に門戸を開いていただければと思う。

<芝原委員>

お世話になりました。震災の年の2011年から、途中、出産でお休みをいただきつつ、6年半の間、委員をつとめた。今後とも、このフォーラムには、いろんな附属機関等のお手本となるような場であり続けてほしい。

私自身は、夏から、京都市ユースサービス協会や、京都市の青少年の部署である育成推進課と共に、学生をはじめとする若者の市民参加を進めようということで、ユースカウンスルのプロジェクトを進めている。フォーラムとも、関わりが出てくるかと思うので、引き続きよろしく願いしたい。

<津田委員>

お世話になりました。青年会議所のお役でこちらに参加していた。青年会議所は、どちらかといえば、頭を使うより汗を流せ、というような体育会系の団体であり、フォーラムではどの程度お役に立てたかと心配もする。ただ、市民がどういう風にまちを作っているのかということについて、私もこのフォーラムで勉強させていただいた。青年会議所が、今後、そのような活動にとっても役立つ組織となれるよう、つなげていければと考えている。次は後任が来るので、引き続きよろしく願いしたい。

<吉川委員>

2年間、大変お世話になりました。委員の皆様の見識の高さに、私はいつも気おくれをしていた。発言をするたびに、こんなことを言ってしまうといいのかと思ったり、次はもっときちんと発言できるようになろうと思ったりしつつ、あっという間に2年間が経ってしまった。先ほど、市役所で、庁内のファシリテーター制度ができたという報告を受け、

非常に良いことだと思った。私自身も、このフォーラムで勉強したことや教えていただいたことを、庁外のファシリテーターとして、まちづくりで困っておられる方等に、「こんなことができるよ」とか「こうしたらいいんじゃない」というアドバイスが出来るようになりたいと思っている。また、何かの機会にお目にかかることもあるかもしれないが、その際はよろしく願いたい。

<竹内副座長>

6年間ありがとうございました。副座長という立場にしながら、気楽に発言をしていたなと思う。最後の3年間は、京都市という名前のついた財団の職員という立場もあり、「これでいいのかな」と思う場面もたくさんあったが、みなさんと御一緒できて大変良かったし、学ばせていただいたこともたくさんあった。この機会を、より多くの人に知ってほしいし、関わってほしいなと思っている。

先日、永橋全座長と、「専門委員を終えたことだし、次は公募委員として応募してみるか」という笑い話をしたが、そのぐらい、このフォーラムには関わったという気持ちが強い。次の方にも、うまくバトンを受け取っていただき、また、その楽しみも含め、関わってもらいたいと思っている。

<壬生座長>

みなさん「退任」ということですが、今後とも、なにかと御協力をお願いしたり、お声掛けさせていただくこともあるかと思います。そうやって、縁を繋いでいけたらと考えているので、引き続きよろしくお願いします。また、来年も継続となる委員もおられるので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

これで、本日の議事を終え、進行を事務局にお返ししたい。

<事務局>

本日も、長時間にわたり熱心に議論いただき、大変ありがとうございました。そしてまた、今年度最後の会議ということで、お疲れ様でございました。

御退任の委員の皆様には、本当にお世話になりました。今後の新しいお立場での御活躍をお祈りしています。公募委員の皆様においても、様々な催しなどを通じて、引き続き、御支援・御協力のほど、よろしくお願いいたします。

私自身は、他の部署でのいろいろな審議会の経験もございましたが、このフォーラムのように活発で有意義で、楽しい審議会は経験がなく、市民参加について大いに学ばせていただく機会となっております。ありがとうございます。引き続き、来年以降もよろしくお願いいたします。

以上